

第6回小平市健康増進計画検討委員会 議事録

○開催日時及び場所

日時：平成28年9月29日（木）午後3時から午後4時まで

場所：健康センター4F 第2・3会議室

○出席委員（欠席者 3名）

井上 斉（一般社団法人 小平市医師会）

小川 健太（公募市民）

木田 明男（小平市立小学校校長会）

小林 智恵子（小平市薬剤師会）

高森 恵美子（公募市民）

多賀谷 守（公益社団法人 東京都小平市歯科医師会）

大久保 仁恵（東京都多摩小平保健所）

村上 英子（公募市民）

持溝 洋介（公募市民）

安永 明智（文化学園大学）

渡邊 直子（公募市民）

○事務局 健康福祉部健康・保険担当部長

健康推進課長

健康推進課長補佐兼予防担当係長

保健指導担当係長

健康推進担当係長

健康推進課管理栄養士

○傍聴者 2名

○委託事業者 2名

○配布資料

資料1 （仮称）小平市健康増進計画素案（案）

資料2 新規検討事業（案）一覧

資料3 計画名称一覧【参考資料】

1 開会

委員長より会議の説明がなされ、事務局より配布資料の確認等が行われた。

2 議事

(1) (仮称) 小平市健康増進計画素案 (案)

健康推進課長が、資料 1 を用いて、(仮称) 小平市健康増進計画素案 (案) について説明を行った。主に前回からの大きな修正や追加について説明した。

委員 81 ページのコラム⑨だが、最後の行にある「一般的信頼感や規範が豊かな地域ほど死亡率が高い」とあるが、これは「死亡率が低い」の誤りではないか。また、46 ページのコラム①のところだが、がんの要因のグラフについての主な部分を説明する文を入れた方が分かりやすいかと思う。コラムが入ったことは、とても良いことであると考えている。計画という固い印象があるが、コラムが入ること親しみが持て知識も得やすくなると思う。

委員 コラムについては分かりやすく囲みを入れたほうが良い。また、この計画書では文章が多いので、イラストまではいかなくても全般的に見るにあたってのやさしさがあると良い。

委員長 用語解説の部分だが、身体活動の意味については運動とは若干異なることから、厚生労働省のアクティブガイドにも記載があると思うが、身体活動とは運動に加えて生活活動であるということが分かるよう解説を加えていただきたい。

委員 59 ページの数値にある「ロコモティブシンドロームの認知度「言葉も意味も知らなかった」と答えた人以外の割合」の表現が分かりにくいように思う。

事務局 アンケート調査での選択肢の都合からこのような表現となっているが、指摘を踏まえ検討する。

(2) 新規検討事業 (案)

健康推進課長が、資料 2 を用いて、新規検討事業 (案) について説明を行った。

(がんについて)

委員 胃がんハイリスク検診だが、ピロリ菌や粘膜について、簡単に行える ABC 検査という血液の検査であるので、ぜひ勧めていただければと思う。

(身体活動・運動について)

委員 ウォーキングマップについてはどのようなものをイメージしているか。また、対象をどうするか、例えば学齢期の子どもたちと高齢者では内容は違ってくると思う。なお、ウォーキングポイント等の事業の内容にインセンティブという言葉が

あるが、ここは日本語で分かりやすい言葉にした方が良いと思う。

事務局 ウォーキングマップについては、都の方でも健康につながる日頃からの身体活動を増やそうということで作成を推進しており、小平市としては市内の観光名所の情報を含めるなどして、日常生活で歩くことへの啓発につながる内容とすることを想定している。また、対象については、小平市のウォーキングイベントや、健康推進課でその他歩くことを取り上げた教室を行っていることから、そういった所での参加者に配布していきたいと考えている。

委員長 環境が人の活動量に大きく影響するということは海外でも言われており、歩道がある、街灯があるなどの影響は大きいとされているが、やはりこれにはコストがかかることであるから、環境に関する認知という、例えばそこを歩くとある季節には桜、あじさい、紅葉がきれいであるというような情報を盛り込んだ楽しいマップを対象ごとに作成し、興味をひくような情報を入れていくと小平独自のマップが出来ると思う。また、距離と歩数が推定値で良いので分かるようにしておく、フィードバックが出来て楽しいと思う。なお、インセンティブという言葉については、報酬やご褒美などという表現になると思うが、実際に行う事業の内容によって変わってくると思うので検討してもらえればと思う。

事務局 インセンティブを設けるという点について、委員のお考えがあればお聞きしたい。

委員長 どこまでの予算が確保できるかということで内容は変わってくると思う。仮に商品券などにした場合、かなり歩く人もいると思うが、ターゲットをどこに置くのか、普段あまり歩かない人を歩くようにするのかなど、その点を考える必要がある。また、予算確保が出来なくなった時点でどうするのかという点もある。他の民間での同様の事例だが、歩数に応じて商品券をプレゼントするというものがあったが、途中で終わってしまったものがある。事業の継続が難しかったからであると考えられるが、例えば商店街などのいろいろなお店に協力してもらうのかなど、他市の事例なども参考に検討していただければと思う。一方で、自分がどのくらい歩いているかという情報を提示してあげるだけでも、十分に内発的なご褒美となるとも考えられる。

委員 血糖値が下がった、血圧が良くなった、薬を飲まなくて済むようになったなどモチベーションにつながるような視点から、歩数だけでなくその他の結果にポイントを与えることも一つの考え方であると思う。

委員長 今後、予算の確保状況から検討し、まち全体で様々なところと連携して実施できればおもしろい取り組みになると思う。

(喫煙について)

副委員長 情報提供だが、薬剤師会では、イベント時に酸素飽和度の計測などを行い COPD の予防に関する情報を提供する取り組みなどを行っている。

事務局 今後の喫煙に関する事業の参考としたい。

(その他)

委員 計画内の行政の取り組みにある主体の欄に、連絡先の記載があると、市民の方がその気になった時すぐに連絡でき、事業に参加しやすくなるかと思う。

3 その他

事務局から、次回会議についての説明がなされた。